

ロス対策士の皆さんへ

今回は逮捕された万引犯の処分をする方法と、5月の検定試験で合格された磯野さんの紹介です。

1. 逮捕された万引犯がどのような処分になったか知りたい場合に

刑事事件の被害者となった方には、検挙された被疑者がどのような処罰を受けることになったのか、その結果通知を受けることができる制度があります。

万引き被害に遭い、犯人は逮捕されたけど、その後、どのような処分になったのか分からない、というケースがあるかと思いますが、検察庁などにあらかじめ通知を依頼しておけば、結果を知ることができますので、是非ご活用ください。

https://www.moj.go.jp/hogo1/soumu/hogo_victim04.html

(上記はロス対策士の石原庸祐さんに教えていただきました。)

2. 5月の検定試験の合格者の紹介

株式会社有隣堂の店売事業本部店舗運営部長である磯野さんは、有隣堂全店舗のマネジメントに携わっています。それまで複数の店舗の店長も経験されています。

静岡出身の磯野さんは、都内の大学に進学し、住んでいた新百合ヶ丘に豊富な品ぞろえで洗練された**有隣堂の店舗**を見つけたそうです。もともと本を読むことが好きで、複数の企業の面接を受ける中、有隣堂を選び入社することになりました。

現在は、店舗営業部門の責任者なので、当然のことながら店舗をお客様が喜んでいただけるようにすることを大切に基本と考えています。一方、書店業界の市場は右肩下がりであるという厳しい現実の中で、次の一手が難しいと磯野さんは言います。「利益を上げ続けること、本をベースに新たな付加価値を提供でき、お客様にとってなくてはならない存在になるために自ら変化していかなければならないと考えています。しかし、どのような変化をして、どのような新たな価値を提供していくべきなのかはとても難しい問題です。」

例えば、データからは有隣堂は中高生に弱いことがわかっています。磯野さんは外商部門で学校などを対象としたビジネスの経験もあり、教師や生徒たちとかかわった経験もあります。その経験から、今まで自分たちのアプローチが足りていないのではとの反省があるそうです。そのことから教師の方に協力いただき生徒に店舗に来てもらったり、どうしたら若い人たちに来てもらえるのかを知る目的でアンケートをとるなどしています。

1979年生まれ、家族は妻と小学四年生の男の子の3人家族の磯野さんは、休日は、子供とゲームなどで遊んだり、家族で買物にでかけることが多いそうです。

趣味は何かと聞くと、磯野さんからは「K-POP」というワードが返ってきました。今ではもっぱらYouTubeで楽しんでいます。K-POPのアイドルのダンスや歌唱力のクオリティの高さを感じるといいます。職場にも同好の士がいるそうで、まだライブコンサートには行ったことがないので是非行ってみたいそうです。

全店の店長が参加する店長会では、売上を伸ばすには厳しい環境であることから、書籍以

外の粗利益のより高い商品の取り扱いの拡大や販売管理費の削減にはみな理解を示し、共通認識があるのですが、一方でロスの削減と利益との関係については、出席者の多くがどうもピンときていないのではと磯野さんは感じました。そのことから本部のメンバーも各店店長もロスについての意識が低かったのではとの反省にたどり着き、ロス対策士検定試験を通じて学ぼうということになりました。

まず第一に「ロスに向き合う」。次に「ロスについての正しい知識を身に着ける」。三つめは「店舗運営にその知識を生かす」ことです。この三つのステップでロスの削減を実現したいと磯野さんは考えています。

磯野さんは、今までにも多くの部署を経験していますが、更にここ数年でもっといろいろな仕事を経験し、知識を高め人脈を広げていきたいと考えています。

また、部下に対しては「自分と家族の心とからだを大切にしてください」と伝えています。もちろん仕事をする上では無理をしなくてはならないことがあるかもしれません。そんな時は一歩引いて自分を客観視することが大切だといいます。

インタビュアーが「つらいなと感じたら K-POP を聴くことが一番ですね」との問いに磯野さんは笑ってうなずいてくれました。